

## 要望演題

2025年11月15日(土) 8:30 ~ 9:20 第7会場

## [R19] 要望演題 19 stage4

座長：佐藤 武郎(北里大学医学部附属医学教育研究開発センター医療技術教育研究部門), 賀川 義規(大阪国際がんセンター)

## [R19-5] 当科におけるstage IV直腸癌oligometastasis症例の手術成績と予後の検討

館川 裕一, 野澤 宏彰, 佐々木 和人, 室野 浩司, 江本 成伸, 横山 雄一郎, 永井 雄三, 原田 有三, 品川 貴秀, 岡田 聡, 白鳥 広志, 石原 聡一郎 (東京大学腫瘍外科)

【目的】 Stage IV直腸癌(Ra, Rb)の5年生存率(OS)は27.8%であるが、CurBとCurCでは49.3%, 18.9%と開きがある(大腸癌研究会全国登録, 2008-2013年症例)。また、少数転移(oligometastasis)は、広範囲に転移している状態とは癌のbehaviorが異なる可能性が指摘されている。当科におけるstage IV直腸癌のoligometastasisと予後との関連を検証した。

【方法】 2015年1月~2025年3月に直腸切除術を行った、遠隔転移のある進行直腸癌(Ra, Rb) 63例を対象とした。欧州臨床腫瘍学会のガイドラインに基づいて、診断時転移個数5個以内をoligo群、6個以上をno oligo群に分類した。無再発生存(RFS)、OSをKaplan-Meier曲線、log-rank検定で検討した。

【結果】 年齢中央値は64歳、男41例、女22例であった。転移個数の中央値は3個(範囲: 1-30)であり、oligo群36例、no oligo群27例であった。術前薬物療法はoligo群15例(42%)、no oligo群20例(74%)で行われた( $p=0.01$ )。症例全体の5年RFSは24%、5年OSは46%であった。CurBが48例、CurCが15例であり、5年OSはCurB群62%、CurC群0% ( $p<0.001$ )であった。oligo群のCurB達成は31例(86%)、no oligo群のCurB達成は17例(63%)( $p=0.03$ )であった。CurB症例の5年RFSはoligo群36%、no oligo群7% ( $p<0.001$ )であったが、5年OSはoligo群64%、no oligo群62% ( $p=0.79$ )であった。症例全体の5年OSはoligo群56%、no oligo群42% ( $p=0.53$ )であった。

【結論】 遠隔転移を伴う進行直腸癌において、oligometastasisであることはCurB達成率が高くなり、良好なRFSに関連したが、OSとは無関係であった。